

## 第2弾 学生たちとリモートでGO！

先月号でお伝えした、東京福祉専門学校の学生の方達との「地域連携プログラム」授業の続報です。前回は、リモート外出として、浅草ミズマチの周辺散策を行いました。今回は「リモート学校見学」と「リモートボウリング」を行いました。



リモートを通して、学校見学を行ったあとは「学校の教室」と「園の活動室」を繋いで、ボウリング対決。場所が離れていても、白熱した雰囲気はしっかりと共有。

## 防災訓練報告

- 1月 防災食体験 (昼食時に防災食を提供させていただきました)  
2月 救急救命研修 (消防庁の作成した動画を視聴し、対応方法の確認を行いました)

## 研修参加および実習生受け入れ報告

### 【外部研修】

- 1月 都通研「個別支援計画再考研修」  
2月 東京都社会福祉協議会「時間構造化理論研修」「職員定着育成セミナー」  
全国社会福祉法人経営者協議会「上級リスクマネジャー養成講座」

### 【内部研修】

- 1月 テーマ 認知症ケア「ユマニチュード」を通して、支援の本質を掘り下げよう。・虐待防止研修  
2月 テーマ チームワーク強化「自分の非言語コミュニケーション」把握できる？

### 【実習生受け入れ】

- 2月目白大学 保育実習

## 編集後記

今は自粛中ですが、暇なときに数日かけて日本アルプスの山旅に出かけます。標高3,000mを超える山々の天候は変わりやすく、目標地点まで早く到着せねばという焦りから、つい歩みが早くなります。結果、ペースが乱れ、立ち止まる回数が増えます。歩みを辞め、足音が消えると薄い酸素に荒ぶる呼吸音、そして雲を運ぶ風の音しか聞こえない世界が現れます。のちのち記憶に残るのは、山頂からの景色より、こうした歩みを辞めた時の光景です。

今年度の広報誌は、様々なイベント中止に伴い、作成を立ち止まるを得ない状況が多くありました。だからこそ、今まで見過ごしていた物が見え、新たな価値のある広報誌作成ができたのではないかと思っています。“歩みを止める”という行為は私たちが思う以上に大切なことなのかもしれません。

令和2年度、4回にわたる広報誌を読んでいただけたこと、そして掲載のご協力をいただいた方々に、この場を借りて感謝申し上げます。



北アルプス天空の縦走路より



社会福祉法人あいのわ福祉会

Social Welfare Juridical AINOWA Organization

## Ayase River Times

みんなで「ほっこり、いっしょに、いきいきと」

安心・信頼を大切に、共に考え・学び、お互いの自己実現を目指します。

## 新成人おめでとうございます。

令和3年1月15日、成人を祝う会が執り行われました。今回は新たに3名の方が成人を迎えられ、リモートにて各フロアを繋ぎ、新たな門出を多くの方々と祝いました。



式内では、成人を迎えた利用者の方の、生まれた時から成人になるまでの思い出いっぱいのスライドショーを上映。暖かな雰囲気が式を包み込みました。

## 新しい年を迎えるということ…。

今までに経験したことのない1年を乗り越え、新たな1年が始まった、1月5日。今年最初の通所日の様子をご紹介します。



Aグループはさっそくの仕事始め。理学療法士の方に作業姿勢のアドバイスをもらう方も。

Bグループでは「福笑い」を手作り。今年ならでは「マスク」をつけた福笑いも。

Cグループでは「絵馬」を手作り。皆さん思い思いの装飾をほどこしました。

Dグループでは「書初め」を。今年の抱負を漢字一文字であらわしました。

## 大きな波の中で、うまれたもの。(2面 3面へ →)

感染症拡大という波は、利用者の方たちの園生活へも大きな影響を与えました。ただ、そんな時だからこそ生まれたものもあります。今回は2面、3面にて、2つのモノをじっくりとご紹介。



【謹製】きんせい

心をこめつつしんで製造すること。また、その品物。



綾瀬あかしや園 謹製  
フェイスガード  
できました。



マスクとフェイスガード。  
必然的に生まれる、緊迫感。  
そして遠ざかる人との距離感。

その事実を変える事はできないけれど

少しでも相手に

柔らかな気持ちを伝えたい。

そんな思いを形にしました。

## 都市名を冠したココロオドルいろどり。

【原宿 キャンディー】



【フランス パリジェンヌ】



【浅草 てやんでい】



ポップカルチャーの発信地。  
文化の多様性から生まれる  
カラフルな色彩が周りを明るく元気にさせてくれます。

落ち着いたトリコロールカラー  
が、莊厳華麗なオーラを彷彿とさせます。目をつむれば、シャンゼリゼ通りが目に浮かぶはず。

江戸の風情を残す下町の代表格。  
藤紫と桃色という和の色を落とし込みました。粋な雰囲気を身にまとえば身も心も軽やかに。

## 妥協しない機能性。



左右から留める二本留めを採用しています。装着される個々の方の頭部サイズに合わせた微調整が可能です。



お手持ちのタオルやビニール袋等を使用して、保護範囲を広げることができます。拡張ピンが付いています。



頭部に直接触れるクッションには、複数の素材の中から厳選した柔らか素材を使用しています。

## 鳴り響く、トンカチの音色。一振り入魂。



制作工程では、耐久性を高めるために、金槌を使用した金属留めを行っています。  
利用者の方たちがひとつ、ひとつ心を込めて打ち込んでいます。

## “機能性を求めない” ということ

書き味は市販のペンには勝てません。  
でも手元を華やかにさせること、  
心地よいひとときを手に入れること、  
これ以上に必要なことがあるでしょうか。



## “500円のペン” ということ

500円で得られる至福、  
それらは世の中にたくさんあります。  
でも、装飾品のように長い時をあなたと過ごしてくれる500円の至福が他に見つかるでしょうか。

## ペンに花々を封じ込む。

【高貴なるスターチス】



花言葉は、じとやか、上品。  
その名通り、高貴な紫の花々を手元に咲かせば、英國宮殿の風が吹く。

【希望へのアングロニア】



花言葉は、過去の恋人、片思いの恋。どこか切なさを秘めた、白い花。悲しみも明日への糧になる、そう信じて疑わないあなたへ。

【運命のアナタヲマツワ】



左記に限らず、四季折々の花々を育て、封じ込めています。  
一点物のペンたちがあなたとの出会いを待っている。

## “手をかける” ということ

一つの商品が出来上がるまで、多くの時間、手間ひまがかかります。それは決してネガティブなことではありません。お互いの支え合いの中で生まれていくモノ作りに、目に見えない美しさがそがれていきます。



## 丹精込めた花づくり。



土を掘り、種や苗を植えます。根が傷つかないよう、種が無事発芽するよう、丁寧な仕事が求められます。



雑草取りも大切な仕事です。  
花々に栄養が行きわたるよう、入念に行います。



暑い日も、寒い日も、  
花に水を。気にかけた分、  
植物は綺麗な花を咲かせてくれます。

## 心に寄り添う、花を添える。



商品の中に  
「押し花のおしおり」を添えさせていただいている。  
ペンの花同様、屋上庭園で育てた花々を、丁寧に摘み、加工を施した物です。お持ちのスケジュール帳や愛読書に、花を添えてあげて下さい。